



2015年 8月

平成27年度 第2回三郷学講座 「三郷市版総合戦略づくり（少子高齢化対応策、地域と大学の連携等）」 を開催しました！

平成27年度第2回三郷学講座は、一般財団法人地域公共人材開発機構専務理事（龍谷大学名誉教授）富野暉一郎氏より「三郷市版総合戦略づくり（少子高齢化対応策、地域と大学の連携等）」と題し、講演をしていただきました。講演後には、講座参加者によるワークショップを実施しました。

日時：平成27年7月30日（木） 午後1時半～
7月31日（金） ②午前9時半～/ 午後1時半～
場所：三郷市役所大会議室



富野暉一郎 一般財団法人地域公共人材開発機構専務理事

人口減少についての考え方

三郷市は全国的に見て非常に珍しいが人口が増えている。総務省が公表しているデータを見ても日本全体が人口減少に入ったことが明らかである。しかし、人口減少というのは必ずしも悪い現象ではないし、コントロールできない現象でもないのである。更に言えば、人口を増やすことだけがいいことであるというのは間違いなのである。人口が減っていたとしたら、その減り方が非常に重要になる。今、人口を増やしている地域でも例えば、増え方がある年代だけもしくはある性別だけまとめて増えてしまうようなことだと後で高齢化したときにリカバリーが出来なくなってしまうのである。三郷市は人口が増えているので直ちに心配をする必要はないが、将来人口まで含めてみるとどうかということには注意して頂きたいと考えている。



持続可能性を持った地域づくり

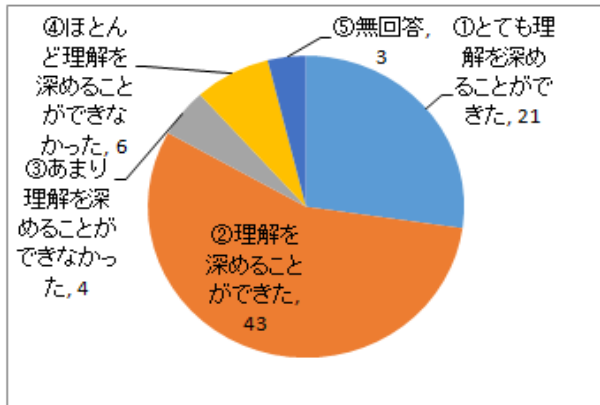
少子高齢化対応策をはじめとした地域づくりは行政だけではできない。市民、行政、企業の3者の力が組み合わさってこそ地域は持続可能性を獲得していくと考えている。その意味で「行政の社会化」が必要である。これまで行政という分母で考えていた公共サービスを行政+市民+企業という大きな分母で考え取り組んでいくことが必要である。私の経験上、行政が自身の仕事を精査すれば7割の行政の仕事は市民や企業に転換できる。こうして新しい協働型社会を作っていくことがまちづくりにおいて重要である。

地域と大学の連携

今、京都府北部・地域大学連携機構というものを作っている。これまで大学という社会資源があまり使われてこなかったのだが、新しいINPOや、会社をつくりたい、様々な仕組みについての疑問といった地域が持っていないような知識、ノウハウを大学は持っている。学生にとっても実際に地域に入って社会の実態に触れ、地域の人と一緒に活動する中で力がつくと考えている。大学の教育も実践型に変えていき社会で本当に活躍できる人を作っていく必要がある。そうすることで、市民が地域のニーズをどんどん挙げて頂くと同時に大学が主導して戦略的にその地域をどう変えていくかということにも取り組んでいけるのである。

人口減少については現状だけではなく将来人口についても考慮しましょう。
「行政の社会化」が持続可能性を保ったまちづくりを展開する鍵です！

三郷学講座参加者アンケートから



<総合戦略について>

理解を深めることはできましたか？

- とても理解を深めることができた・・・21人
- 理解を深めることができた・・・43人
- あまり理解を深めることができなかった・・・4人
- ほとんど理解を深めることができなかった・・・6人
- 無回答・・・3人

<総合戦略について(入れてほしい内容も含む)>

- ・子育てに限らず、持続的な都市としてあり続ける条件を環境、経済、社会の広い視野から考える必要性を感じました。入れて欲しい内容としてはネットワーク構築です。新しく三郷に住む方も増えていますので、町や住む人につながる機会を創造して欲しいと思います。
- ・年配の方が多いので地域を見守る活動などを総合的にやれるといいと思います。
- ・これまでの政策の維持性だけでなく、抜本的政策も必要だと強く思った。

<講演について>

- ・わかりやすい言葉で非常に聞きやすいお話でした。できればもう少しゆっくりお話を聞きたいと思いました。
- ・具体例が多くわかりやすかった。日々の業務で多々感じることもあり、行政だから仕方ないのか...と思っていたがそうではないことを今回の講演で分かった。(業務が30%まで削減できる等)
- ・色々な経歴をお持ちの先生の話聞くことが出来て、色々な視点から物事を見ることの大切さを学ぶことが出来ました。
(*自由記述欄より一部抜粋)

ワークショップで得られたご意見

<子育てに必要なだと思うもの>

- ・子育てしている人が一人で抱えこまない環境づくり(交流がもてる 悩み相談ができるなど)
- ・Facebook 三郷市のママグループ/子育て情報アプリ
- ・子育ての支援をしたい人(リタイア世代)をまとめる
- ・父友コミュニケーションをつくる

<地域の交流活性化に必要なと思うもの>

- ・スポーツ交流(スポーツ少年団の充実)
- ・向こう3軒両隣政策
- ・周りの人々(子育てをする人や近所の人)と情報交換やふれあえる地域づくりのある街
- ・農業体験や様々な体験ができる機会
- ・年齢層が偏らない町会等の取り組み

(*ワークショップの意見より一部抜粋)